

事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされておりますので、保護者様・来訪者様等の
閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

東京都福祉サービス第三者評価(2022年度) 評価結果報告書

2023年3月31日

社会福祉法人森友会
ほほえみの森保育園

御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号

機構 03 -

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 中込 重秋



以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H1002063	☒ 福祉	☐ 経営
	②	H0702006	☒ 福祉	☒ 経営
	③	H0702077	☒ 福祉	☒ 経営
	④	H0902065	☒ 福祉	☒ 経営
	⑤		☐ 福祉	☐ 経営
	⑥		☐ 福祉	☐ 経営
福祉サービス種別		認可保育所		
評価対象事業所名称		ほほえみの森保育園		
事業所連絡先	〒	190-0022		
	所在地	東京都立川市錦町3丁目1-20		
	TEL	042-595-6930		
事業所代表者氏名		押条 賢貴		
契約日	2022 年	8 月	1 日	
利用者調査票配布日(実施日)	2022 年	12 月	12 日	
利用者調査結果報告日	2023 年	2 月	1 日	
自己評価の調査票配布日	2022 年	11 月	12 日	
自己評価結果報告日	2023 年	2 月	1 日	
訪問調査日	2023 年	2 月	6 日	
評価合議日	2023 年	2 月	6 日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・利用者調査は共通評価項目及び事業所と協議のうえ設けた独自質問により、インターネットでのウェブアンケート形態で実施した。また調査開始時に書面の配付やポスター掲示などで保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシの配付、提出期限の延長など、回答率向上にも努めた。 ・事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がより的確なものとなるよう配慮した。			

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） ・すべての子どもの最善の利益のために ・「心身調和発達」を促す保育 ・「基本的な生活習慣」の育成を進める保育 ・「集団への参加と自主協調の態度」を養う保育 ・「子どもらしい表現によって、生きる力の基礎」を養う保育
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割 未来・夢のある子どもたちへ、「誉める保育」を実践し、ともに成長していける人。 「笑顔」「誉める」「思いやり」を大切にでき、それを実践できる人。 チームで保育を行い、チームでの情報共有・連携が取れる方。 （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） 子どもと視線を合わせ、言葉を交わし、誉めることで、子どもが自信と好奇心を育む応援をしたいという思い

調査対象

調査開始時点での当園の利用世帯36(在籍児童数40)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。ウェブアンケート形態により実施し、回収は保護者から評価機関への直接電送(外国語世帯のみ調査票の直接郵送)にて行った。結果は選択式・自由記述とも園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

40

36

36

23

63.9

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」56.5%・「満足」39.1%の計95.7%と高い値を得ており、設問別でも「発達に配慮した保育活動」「急な残業等への配慮」「子どもの興味・関心の伸長」「整理整頓・清潔」など、全17問中14問で80%台～100%の高い支持を得ている。

自由意見では「保護者と子どもを見守ってくれるスタンスで、小さい園の中でもできる最大限の工夫をしてくれ、人数が少ない分一人ひとりの個性が尊重されており、多忙な労働環境の中でも保護者への負担がないよう日頃から配慮してくれている」「異年齢の友達とも関わりが持てるので、自分の立ち位置を考え、時にぶつかり、優しくすることも学べ、先生方の子どもの気持ちの受けとめ方はいつも素晴らしく、トラブル時の説明も丁寧である」「小規模な園なので、年齢の違う子どもとたくさん遊べ、保育士もいつも笑顔でいてくれてありがたい」「異年齢保育、營めることを大切にしている点、さまざまな制作や体験活動、身体表現、マイペースに過ごせる環境がよい」などの声が寄せられている。

さらなる向上を望む意見として複数見られたのは、保護者への情報発信や職員の業務負担に関することである。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	23	0	0	0
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、有効回答者23人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は11件で、「限られた環境の中での活動等だとは思いますが、先生方が子どもに経験をさせてあげたいという気持ちが伝わり、活動を通して経験したことが子どもの姿として表れている」「家では教えられないたくさんのことを教えてくれて本当にありがたい」「やってみたい、知りたい気持ちを汲んで子どもに寄り添ってもらっていると感じている」などのほか、戸外活動等のさらなる充実を望む声があった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	21	2	0	0
「はい」が91.3%、「どちらともいえない」が8.7%となっている。 自由意見は8件で、「好きなものを覚えてくれ、教室に入りがなくても好きなもので声をかけてくれて、好きな時にやりたいこと、やってみたいことをさせてくれ、はさみなど危険なものも家では小さい子がいるので難しいが、やらせてくれていたようだ」「家ではなかなか用意することの難しい玩具や粘土、楽器にも触れられて、興味津々だと思う」「季節ごとの行事に合った制作などしている」などのほか、活動内容や保護者への伝達等について、さらなる充実を望む声があった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	20	2	1	0
「はい」が87.0%、「どちらともいえない」が8.7%、「いいえ」が4.3%となっている。 自由意見は7件で、「家では食べないものを食べていると聞いて感激で、とてもおいしいのと、先生がうまく最後まであきらめずに食べさせてくれている」「月齢に合った食事を用意してくれ、毎日おかわりをするほど喜んで食べてきている」「個別に対応してくれ、変更事項も丁寧に説明してくれている」などのほか、食事の品数や内容について、さらなる工夫を望む声が見られる。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	18	4	1	0
「はい」が78.3%、「どちらともいえない」が17.4%、「いいえ」が4.3%となっており、「はい」の値には前回（2019年度・以下同、46.2%）からの顕著な改善が見られる。 自由意見は9件で、「園庭で遊んだり公園まで散歩に行ったり、季節の行事などがあるのでありがたい」「園庭がなくても戸外への散歩や栽培など工夫していると思う」「園庭で遊ぶことは安全性にも安心感があり、また行事も親の事前準備等が負担ない方法で行ってくれて大変感謝している」などのほか、戸外活動や社会との関わりのさらなる充実を望む声が見られる。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	19	1	0	3
「はい」が95.0%、「どちらともいえない」が5.0%となっている。 自由意見には「非常に柔軟に対応してくれて、いろいろと言いたいこともあるはずなのに、見守ってくれているのが本当にありがたい」「非常に助かる」の2件があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	14	8	0	1
「はい」が63.6%、「どちらともいえない」が36.4%となっており、「はい」の値は前回（44.0%）から改善されている。 自由意見は6件で、「廊下の鍵かけも次の週に改善していたりと、すぐに対応しているように感じる」のほか、感染症対策や外部侵入対策、保育中の安全管理、園での子どもの様子等の保護者への伝達について、気になる点や要望が挙げられている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	20	3	0	0
「はい」が87.0%、「どちらともいえない」が13.0%となっている。 自由意見は6件で、「基本的に土曜日であり、両親で参加できるのでありがたい」「仕事の休みの変更ができないので、体調不良等で園児の人数が少なくなった時は、2週連続で行事を行ってくれるように臨機応変に対応してくれ、非常に助かる」「掲示を玄関にしてくれるので、いろいろと確認しやすく、配慮してくれていると感じる」などのほか、コロナ禍の影響による行事の学年ごとの開催について、検討を望む声が見られる。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	18	4	1	0
「はい」が78.3%、「どちらともいえない」が17.4%、「いいえ」が4.3%となっている。 自由意見は8件で、「家での様子を伝えと、『園ではこんな感じです、引き続き様子を見ていきますね。何かありましたらまた教えてください』と言ってくれるのでありがたい」「相談をした際は親身になって話を聞いてくれ、アドバイスをくれてとてもありがたい」「子どもの気持ちが不安定になった際に、相談に乗ってもらった」などのほか、職員の対応について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	21	2	0	0
「はい」が91.3%、「どちらともいえない」が8.7%となっている。 自由意見は3件で、「いつもきれいだと思う」のほか、各室内や水回りの清掃について、さらなる配慮を望む声や、コロナ禍に伴う園舎内へのアクセスの制限に関する意見が寄せられている。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	21	1	1	0
「はい」が91.3%、「どちらともいえない」が4.3%、「いいえ」が4.3%となっており、「はい」の値は前回（80.8%）からさらに向上している。 自由意見は6件で、「職員の方の対応は非常に素晴らしく、安心して預けられる」「皆さんいつも笑顔で接してくれる」「自由な服装でよいと思う」のほか、職員の言葉遣いや接遇、服装・身だしなみについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	20	2	0	1
「はい」が90.9%、「どちらともいえない」が9.1%となっている。 自由意見は5件で、「ケガなどの詳細な報告に加え、翌日の朝の登園時に必ずケガなどのその後の状態の確認をしてくれ、先生同士で細かく連携してくれていると感じる」「ちょっとしたケガだったとしても、対応して報告してくれる」「様子を見てすぐに電話をくれる」などのほか、「看護師がいない時どのくらいの職員が対応できるのかというのは疑問や不安に思うことがあるが、今の看護師は信頼している」との声があった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	16	4	0	3
「はい」が80.0%、「どちらともいえない」が20.0%となっている。 自由意見は4件で、「職員が把握している範囲での対応はきちんとしてくれていると思う」「状況や処置について細やかに説明してくれているので、安心している」のほか、子ども間のトラブル等の把握や、トラブル発生時の保護者への情報提供などについて、さらなる配慮を望む声が見られる。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	21	2	0	0
「はい」が91.3%、「どちらともいえない」が8.7%となっている。 自由意見は5件で、「親がイライラしてしまいそうな時も、先生がうまく声かけしている姿を見てみて、勉強になる」「いろいろと思いを汲み取ってくれていると感じている」「安心して任せられる」のほか、子どもの気持ちを大切にしたい対応、園での子どもの様子等の保護者への伝達について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	20	2	0	1
「はい」が90.9%、「どちらともいえない」が9.1%となっている。 自由意見は2件で、「わが家はあまりプライバシーを気にするタイプではないので、まったく気にならない」のほか、園での子どもの様子等の保護者への伝達について、さらなる配慮を望む声が見られる。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	19	3	1	0
「はい」が82.6%、「どちらともいえない」が13.0%、「いいえ」が4.3%となっており、「はい」の値は前回(69.2%)から改善している。 自由意見は4件で、「毎日、今日一日中はこんなことをした、こんな感じだったと伝えてくれる」「やっている内容は想像しやすいので、連絡帳でも様子がよく伝わっている」のほか、子どもの成長・発達や日頃の生活、保育内容等に関する保護者との共有について、さらなる配慮を望む声が見られる。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	19	3	0	1
「はい」が86.4%、「どちらともいえない」が13.6%となっている。 自由意見は5件で、「まだ不満に思うことはないので経験なしだが、対応はきちんとしてくれると思う」「これまでの対応で不満を感じたことがない」のほか、要望・意見等への対応、連絡帳の記載漏れについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	19	3	1	0
「はい」が82.6%、「どちらともいえない」が13.0%、「いいえ」が4.3%となっている。 自由意見には「これは見落とすところだと思うが、書面に記載されているので確認しやすい」の1件が寄せられている。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	基本理念などの法人共通に目指すものについて、保護者との共通理解形成に努めている 法人の基本理念とする「すべての子どもの最善の利益のために」、心身の調和的発達と基本的な生活習慣の育成などの5つの保育の方針などについて、保護者には見学・入園時に説明している。また今年度紙面の充実を図った園・フロアの各便りも、これらに関する理解を深めてもらう媒体とするほか、今年度の春の保護者会では、理念に謳う「子どもの最善の利益」を「権利の保障」と置き換え、安全の確保と主体性の尊重、すなわち受動的・能動的のいずれの権利の保障も子どもの保育では重要であることを伝えるなど、保護者との共通理解の形成に努めている。 組織内での法人・園の理念・方針等の共有と、日々の組織運営の円滑化に取り組んでいる 職員には上記の法人共通の理念・方針等について、入職時の研修による周知を図るほか、常勤者が行う年2回の自己評価などを通じ、その理解や日々の実務における実践を促している。また園長・主任を中心に、経営層が随時の話し合いなどによって現場の状況の共有や直近の諸課題に関する方針決定を行い、直後の職員・フロアの各会議で職員に発信している。日々のマネジメントにおいては、各人の特性や得意を活かしつつ、こまめな個別の対話に努め、意向の把握や職員間・フロア内の調整を行うことで、組織の同僚性や各人の帰属意識の向上を促している。 各種会議体を整え、必要な意思決定と関係者への決定事項等の周知を行っている 園全体の各種重要案件の検討・決定は、上記の経営層による話し合いのほか、主に毎月常勤者と参加可能な非常勤者が集う職員会議で行っている。また各階で毎月行うフロア会議、給食・安全・環境衛生など5分野の委員会が設けられ、これらの場で話し合われた実務上の諸課題が、前述の職員会議や経営層の話し合いでも共有され、園全体の検討・決定の参考とされている。決定事項などの必要な情報は、議事録などによって各会議に参加しない職員にも周知され、保護者にはアプリでの配信を基本に、案件に応じ書面も併用し、各種の重要な連絡事項を伝えている。	

2			カテゴリー2	
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行				
サブカテゴリー1(2-1)				
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
☒ あり ☐ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している			☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している			☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している			☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している			☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している			☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している			☐ 非該当

サブカテゴリー2(2-2)

実践的な計画策定に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	☐ 非該当

評価項目2

着実な計画の実行に取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	☐ 非該当

カテゴリー2の講評

保護者や子育て家庭の声、職員の意向や地域・行政などの状況の把握がなされている

保護者全体の意向を保護者会や行事後の感想収集などから、個別の要望・相談等は面談や日々の送迎時等の会話と連絡帳の交換などから把握し、職員の意向は前述の各会議や個別の面談などが把握の機会となっている。また見学で来園する未就園家庭との会話や、今年度開始のアンケートから、子育てや保育などに関するニーズや地域の傾向を把握するほか、市の法人立園長会などの保育・福祉施設が集う会議にも参画し、関係者との情報交換などを行っている。行政の関連政策や業界内の種々の話題は、市・法人の各園長会や発信物などから情報を収集している。

複数年単位の課題・目標と年間の園運営について、それぞれの計画を作成している

当園としての中・長期計画を作成し、今年度を含む4か年について、経営環境や園の現状と展望を踏まえた「目指すべき目標」と、今後の経営継続に向けた諸課題、関連する「重点事項」8分野の取組の概要と成果の指標及び測定方法、各分野の年度ごとの主な取組を列挙している。また年度の事業計画に、保育や人材の確保・育成、地域との連携・保護者支援など、法人共通の分野構成で、年間の園運営の主要分野の方針や取組の概要を定めている。法人においても事業環境の動向・見通しや法人共通の諸課題を踏まえ、「中長期・短期事業計画」が策定されている。

現場の日々の実務は、業務分野ごとに年間及び各期間の計画作成のもとで実行されている

各職員が現場で取り組む実務について、保育や行事・防災・保健などの業務分野ごとに、年間計画と、取組内容・ねらい等を定めた具体的な各計画が作成され、保育の年間計画の四半期ごとの評価・反省など、適宜の進捗確認のもとで実行されている。また保育現場の諸活動の年間の進捗の目安も別途作成している。上記の当園の中・長期計画と年度事業計画は、相互の関連性を深め、中・長期的な見通しのもとで年度の課題・目標等を設定する、より計画性を持った園運営に活かすことや、各計画の期中の進捗管理や柔軟な変更などの仕組みの確立が期待される。

3			カテゴリ-3	
経営における社会的責任				
サブカテゴリ-1(3-1)				
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 2/2	
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
☒ あり ☐ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる			☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。			☐ 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)				
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている			サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
☒ あり ☐ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている			☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある			☐ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
☒ あり ☐ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している			☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている			☐ 非該当

サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	☐ 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリー3の講評		
法人の保育者として守るべき種々の規範・心得について、職員への啓発がなされている 今年度全面改訂された法人の「職員の心得マニュアル」に、社会人としての各種基本心得や機密・プライバシー情報の漏洩防止、いわゆる不適切保育の禁止を含む子どもの人権の尊重など、法人の保育者としての規範が示されており、改訂に合わせて各職員に確認を促している。また各人の入職時にも、これらに関連する啓発がなされるほか、「誉める」「笑顔」「美しい仕草」などの現場で心がけるべき所作などとともに、年2回の自己評価によって確認が促されている。不適切保育の防止については相次ぐ報道を受け、12月の職員会議でも注意喚起を行っている。 園・家庭での子どもへの虐待の防止や、保護者の意向への適切な対応に取り組んでいる 子どもへの虐待的言動を戒める法人作成のチェックシートに基づき、毎月全職員が内省を行っており、年度後半から園独自に書式を改め、質問ごとに「具体的な状況及び再発防止対策」を記述する形とし、より深い振り返りと経営層による状況把握に活かしている。また家庭での虐待等への対応に備え、行政及び関係機関との連携体制を整えるほか、法人作成の関連のマニュアルを常備している。苦情解決制度や玄関の「ご意見箱」、毎日の通園の中での交流など、保護者の意向の把握の仕組みを整え、寄せられた声は適宜園内で検討し、案件に応じて対応している。 地域に開かれ、子育て等の支援を担う園として、貢献や関係者との連携に取り組んでいる ホームページや立川市を通じた園の各種情報の発信、法人共通の手順書等に基づく実習生・職場体験生の受け入れなど、地域に開かれた園としての取組を行うほか、市内の公私立園合同の事務連絡会や法人立保育所の園長会、市子ども支援ネットワークの地区別ブロック会議など、保育・福祉関係者の連携組織にも加わっている。見学受け入れ時の未就園家庭への相談対応のほか、理学療法士を招き、家庭の玩具でできる運動遊びをテーマに、在園・地域合同の育児講座を行っており、今後は保育所体験や、子どもの靴選びなどに関する講座も企画したいと考えている。		

4			リスクマネジメント		5/5
サブカテゴリ1(4-1)					
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる			評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目				
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている				○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている				○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している				○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる				○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる				○非該当
サブカテゴリ2(4-2)					
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目				
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている				○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している				○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている				○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している				○非該当
カテゴリ4の講評					
不審者・不審物や各種感染症、子どもの心肺停止など、重要リスクへの対策を行っている 市街地に近接する園の立地を考慮し、年3回の不審者対策訓練や今年度新設の不審物対策訓練を、警察署の来園指導も交えて実施し、敷地内各所のカメラ監視も行っている。また園の面している公道は、朝夕を中心に交通量も多いことから、散歩時の安全確保にも留意している。新型コロナウイルス等の感染症や夏季の熱中症など、時季や内外の状況に応じて重要性の高まるリスクへの対策のほか、心肺蘇生法について、乳児のフロア会議での確認と、消防署来園による訓練を行っている。今後の経営環境を見すえ、保護者・地域への発信の強化にも取り組んでいる。 日常の各種事故を防ぐための事例の検討・共有、災害対策など、安全の向上に努めている 毎月の避難訓練によって災害時の諸対応を確認するほか、災害・感染症を想定したBCPを作成しており、その組織内の周知や、より多様な時間帯等を想定した訓練実施も検討されたい。また子どものケガ等、事故の発生時の原因・対策等の検討や、ヒヤリハットの収集にも取り組み、ケガの集計・分類による傾向把握と、それに基づく職員配置や活動内容の再検討、看護師による系列各園の事例と併せた毎月の事故・ヒヤリハット報告など、安全の確保と向上のためのさまざまな取組を行っている。職員会議では看護師からの保健面の注意喚起も随時なされている。 各種情報の取り扱いに関する仕組み・環境を整備し、適切な利用と管理につなげている 今年度改訂された法人共通の「個人情報管理マニュアル」に、利用目的や開示・訂正等の請求への対応方針、各種情報の取り扱いや漏洩・滅失の具体例などが示され、関連の各種規程も別途整備されている。これらに関連する啓発を、職員には入職時、実習生等には受け入れ時に、保護者には入園時に、利用目的等の説明と同意確認がなされている。グループウェアやクラウド上の共用データベースを活用した、法人内の情報共有のほか、重要書類の施錠管理や端末機器・ソフトウェア類のログイン制限など、情報の利活用と漏洩防止の両立にも取り組んでいる。					

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリー5の講評		
人材確保への注力と異動・配置への配慮、キャリア形成等の指標の設定がなされている 法人と系列各園が協力して人材確保に注力し、法人サイトやSNSでの情報発信、各養成校へのアプローチや関連イベントへの出展など、多様な媒体・方法を活用するほか、今年度は在職者の人材紹介への手当の増額がなされている。配属・異動は法人の人事委員会が各園の状況を踏まえて行い、園内のチームとしての関係性や経験等のバランスを考慮して配置を決定している。また職員の入職後のキャリア形成の道筋を「職員のキャリアプランについて」に図示し、職位・経験ごとに望まれるOn/OffJTを示す当園版の「人材育成計画」を別途作成している。 自己評価と面談を軸とした個別育成と、法人内の多様な研鑽の仕組みが整備されている 法人共通の「振り返りシート」により、各職員が職業人・保育者の両面で自己評価を実施するとともに、年度の振り返りと次年度の目標・受講すべき研修の設定を行い、園長との面談によって共有する、簡易的な目標管理を実施している。これと併せ、同シートと同一項目による評価制度が別途設けられ、人事面の参考とすることで、意欲の促進の一環としている。また法人の保育の柱である「誉める保育」に関する実務的な研鑽、法人アドバイザーや外部機関による表現活動やチーム力向上等に関する研修など、法人内の多様な研鑽の仕組みも整備されている。 現場の主體的な学びと改善活動がさまざまに行われ、職場環境の最適化にも努めている 上記の法人の研修や都キャリアアップ研修など、内外の研鑽の成果は、会議や報告書等により組織内に伝えられ、各会議では保育や子どもなどに関する話し合いと気づきの共有もなされている。また給食・安全・環境衛生・環境衛生・保健の各委員会と、経営層がメンバーとなる保育委員会での、職員主体の改善活動など、組織の活力促進も図られている。少人数の体制で法人の他園と同様の計画立案・行事等を行うことから、現場の負担軽減を課題としており、業務の必要性の検討と合理化、計画的・効率的な業務実施等に関する現場の啓発にも取り組んでいる。		

カテゴリー7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
昨年度は保護者が子どもを預けるうえでの安心感の向上につなげることを目的として、保育中の事故の抑制・防止を図るための取組に注力した。園内での事故の発生による保護者対応が多い傾向にあり、関連する苦情も散発していたことから、事故防止の仕組みの強化を図ることとした。 事故及びヒヤリハットについて、原因分析の仕方を改め、5W1Hの視点で考察することで分析の精度を高め、予防・再発防止により効果的な原因究明につなげることに取り組んだ。またそれにより、保護者への説明の際も「気をつけます」「目を離さないようにします」のみで終わらせないことも目的とした。 また、昨年度は在籍職員のうち半数近くが新任者という状況で、保護者への報告・説明の技術については組織的な課題でもあった。事故等についても上席者が説明を行うことで、保護者の不安の抑制を図るとともに、説明を行ううえでは事故等の情報を担当者がリーダーに報告することが必須となるため、報告の場面で報告者・リーダー双方にとってのOJTの場となることも期待した。 環境面でも、年度後半から0・1歳児クラスと2歳以上児クラスの間に仕切りを作り、年齢相応の教具・教材で遊び込める構成へと変更した。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評	
従来のワンフロア・仕切りなしの環境では、身体の発達と動きの範囲の違いから、子ども同士の衝突や低年齢児の誤飲が起りがちであったことに加え、感染症の拡大についてもリスクが懸念されており、仕切りの設置はこれらへの対応として行った。 発生後の分析については、事象の重要性に応じ、担当者に加え園長・看護師も参加して検討し、原因・防止対策の検討を的確に行うよう取り組んだ。 取組は当初の目的の一つであった保護者の苦情の抑制につながったほか、園全体のケガの件数の減少にも結びついている。今年度4月は前年度同月の46件に対して38件、5月は前年度から半減の39件、6月も前年度85件から43件へとというように、顕著な成果を得ている。また集計と併せて発生時間帯の分類も行い、ケガのリスクの大きい時間帯を探るとともに、人員配置や活動内容の再検討も行っている。 事故を科学的な視点で分析し、原因・対策の明確化と共有によって事故防止と安全向上につなげる、これら一連の仕組みを定着させることを課題として、今年度も取組を継続している。また年度当初の保護者会では、園長が子どもの権利の保障の視点から、上記の室内のエリア分けの趣旨を保護者に説明している。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

これより前の評価カテゴリーの講評でも述べているが、当園は定員40名の中小規模に分類される施設であり、職員の組織も相対的に少人数となっている。一方で、各種の保育書類作成や行事などの業務は、法人内の系列他園と同様に行うことが必要となることから、現場の一人あたりの仕事量がとすれば増える傾向もあり、負担の軽減が課題となっている。折からの職員確保が困難な状況の影響もあり、持ち帰りの仕事やいわゆるサービス残業も生じがちであった。

これを踏まえ、昨年度は業務分掌の見直しや残業実施におけるルール明確化、休憩及び事務作業時間の確保に取り組むこととした。各人の残業実施について、昨年度着任の現園長が年度前半の状況を把握したうえで、年度後半の会議で、事前申請と承認の仕組みの徹底と、サービス残業の禁止を通達した。また休憩・事務時間の確保については努力目標とし、各人の計画的・効率的な業務の実施と、職員間の相互協力を促した。

また業務改善の担当委員会を設置し、日常行われている各業務の洗い出しと整理を行うとともに、業務分掌の見直しを行った。

目標の設定と取り組み

- ☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- ☐ 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- ☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- ☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評

取組の成果として、サービス残業の抑制が図られたほか、同委員会の分析から、残業が生じがちな業務が明確になり、それらへの対応策を含め、業務全体の見直しがなされている。今回の職員自己評価でも、取組の成果を挙げる意見が散見されている。今年度も取組を継続するとともに、委員会の体系及び担当業務や、組織内の業務分担の見直しを行うなど、さらなる最適化に取り組んでいる。事業計画にもこれらを重点課題に挙げ、引き続き推進している。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
		評点(〇〇〇〇)	
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	☐ 非該当
サブカテゴリ1の講評			
法人や園の情報は、ホームページやパンフレット等を通じて発信している 法人のホームページでは、系列園共通の保育理念「子どもの最善の利益のために」と、それを実現するための取組や方針「誉める保育」「異年齢の関わりを大切に」「子どもの主体性を尊重する」を紹介するほか、それらをより詳細に解説した「コンセプトブック」をホームページ上でも閲覧できるようにしている。また当園のページでは、施設の基本的な情報や1日の流れ、年間の行事予定のほか、ブログでの写真とコメントでの活動紹介等を通じて、日頃の園の様子を発信している。見学者には、保育理念や施設の情報等を掲載したパンフレットを用意している。			
市の各種媒体やパネル展示等を通じて、園の情報が発信されている 市のホームページや冊子等の各種媒体でも、園の各種の情報が発信されている。市のホームページ内には、本園を紹介するページが設けられ、保育理念・方針、保育の特徴や年間の主な行事などの園の概要などの情報が掲載されている。市の窓口等で入手可能となっている「保育施設利用申込みのしおり」や「子育て応援Hiチーズ」にも、園の情報が掲載されている。また市の「ほいくのひろば」では、パネル展示によって園の紹介をする機会が設けられている。育児講座の開催情報は、近隣の他園にも掲示を依頼し、未就園世帯の参加を呼びかけている。			
入園後の齟齬が生じないように、見学では保育の特徴の説明や質疑応答を行っている 園の見学は、子どもの遊んでいる様子が見られる、平日の10時頃から1日1組を定員に行っている。予約を電話で受け付ける際に、日程を相談しており、申込者の都合に応じ、土曜日や平日午後の見学にも柔軟な対応を心がけている。当日は、園のパンフレットや「コンセプトブック」等をもとに、保育方針や環境面等の大切にしていることを伝え、園内を案内する際には、掲示物等を使って園の取組等を説明している。質疑応答も行い、入園後に齟齬が生じないように丁寧な説明を心がけている。			

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当	
サブカテゴリー2の講評			
利用開始にあたっての説明と同意確認を入園前に行っている 入園が内定した世帯には、入園前に説明会を開催し、利用開始にあたっての説明と同意の確認を行っている。プレゼンテーションソフトを活用して、「入園のしおり」や重要事項説明書に沿って、保育の理念や方針、施設の概要などの重要事項のほか、登園や保健、食事などの約束ごとを説明している。年齢ごとに異なる準備物は、面談時に説明している。質疑応答によって、保護者の不明点や疑問点の解消を図り、重要事項の説明や個人情報の取り扱いに関する同意について、書面にて確認している。 保育開始に備え、入園前の面談では親子の状況を確認し、支援に役立てている 入園前の面談では、保護者や子どもの状況の聴き取りを行い、保育開始に必要な情報を把握している。保護者から提出される「個人調査票」等の書類をもとに、子どもの健康や発達の状態、生活状況のほか、保護者の就労状況や保育に対する意向等を確認し、聴き取った情報は必要に応じて各書類に追記している。食物アレルギーや医療的ケア等の配慮事項がある場合は、看護師が面談に同席して詳細な情報を把握し、入園後の個別の援助に活かせるようにしている。面談で得た情報は、共有認識を持って支援にあたれるよう、組織内での共有を図っている。 利用開始時の親子の不安に配慮し、卒園後の関係継続に努めている 入園直後の新しい環境で生活を始める子どものストレス等に配慮できるよう、入園当初には、保護者の就労への復帰予定や子どもの状況に応じて設けた期間で、保育時間を徐々に延ばしてゆく「慣らし保育」を行っている。期間中の子どもの状況に応じて日程を調整し、保護者には、降園時に写真も活用して、当日の様子を報告している。今年度の卒園児には、「夏祭り」の招待状を送付したほか、在園児が卒園児に手紙を送って交流するなど、関係の継続に取り組んでいる。			

サブカテゴリ3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を 個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている	○非該当

評価項目3

子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	☐ 非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	☐ 非該当

サブカテゴリー3の講評

子どもや家庭の情報を収集するとともに、子どもの発達の経過を記録している

入園時には個別の面談を行い、子どもの生育歴や発達の状態、家庭の状況等の情報を、保護者が記入する書類や口頭での聴き取りで収集し、記録している。心身の発達は、年齢ごとの周期で発達指標を用いて確認するほか、発達指標だけでは表すことのできない、健康面・情緒面なども含めた全体的な子どもの様子は、記述形式で記録している。子どもの体格的な成長は、毎月身体測定を行って「けんこうのきろく」に記入するほか、予防接種の状況や既往症などの保健に関する情報は、変化があることに適宜保護者から報告を受けて追記している。

全体的な計画をもとに年・月・週の計画を策定し、日々の保育に展開している

全体的な計画を踏まえ、年・月・週の計画を策定しており、全体的な計画は年度末に見直しを行っている。年間指導計画では年間を4期に分け、期ごとのねらいや養護・教育の内容などを定めており、評価・反省も期ごとに行い、次期の内容に反映している。これらをもとに月・週案を作成し、週の計画は0・1歳児と2歳以上児の区分を設けることで保育実践につなげている。配慮が必要な場面が見られる子どもには、週案の配慮事項欄に内容を記載し、職員間での共有を図っている。2歳児までは個別計画を策定し、一人ひとりの発達に沿った支援を行っている。

システムの導入や各種会議の実施など、子どもに関わる情報の共有を図っている

毎月の保育の目標や子どもの姿のエピソードは、乳児・幼児便りで保護者に発信している。保護者会は年に2回行っており、保育のねらいや今の子どもたちの様子、今後の発達の見通しや年間行事についての説明を行うとともに、保護者からの質問も聴き取っている。指導計画や子どもの発達記録等の内容は、ICT化されたシステムによって園にいる職員が閲覧できる環境を整えている。乳児・幼児クラスの計画の共有や連携、園や子どもの情報の伝達は各種会議にて行っており、情報共有用の「コミュニケーションノート」も活用して職員に周知させている。

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	☐ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	☐ 非該当
サブカテゴリー5の講評		
個人情報の適切な取り扱いと、子どものプライバシーや羞恥心への配慮に取り組んでいる 子どものプライバシーや個人情報の取り扱いに関しては、入園時に書面に基づく説明により、保護者の利用目的に関する同意を確認しており、入園後に情報を外部とやり取りする必要がある場合には、そのつど保護者の同意を得るようにしている。また子どもの羞恥心への配慮として、着替えは出入口付近では行わずに、外部からの視線が届きにくい場所で行うようにしている。また、乳児期から着替えの手順を知らせたり、おむつ交換台をトイレの中に設置したりするほか、幼児のトイレも扉付きの個室を用意している。 子どもの人権に配慮した保育に向け、適切な関わり等の徹底を促している 子どもの人権に配慮した保育として、園児一人ひとりに寄り添った保育を心がけるとともに、職員による不適切な保育が行われないよう取り組んでいる。系列園共通のマニュアル「職員の心得」には、食事や排せつ等の生活の各場面における、適切・不適切な職員の言動のほか、好ましい伝え方・好ましくない伝え方を示し、職員の確認を促している。また今年度園で独自に作成した、不適切な事例に関して具体的な状況や再発防止対策を記入する「虐待防止チェックシート」を使って、月1回全職員が振り返りを行い、適切な関わり等の徹底を促している。 虐待防止に関する手引書を整備し、理解を深められるよう共有や研鑽を行っている 虐待の定義や園の役割などのほか、フローチャートで虐待の早期発見から通告の手順など示した系列園共通の「虐待防止マニュアル」を整備し、職員は日々の登園時の視診等での早期発見に努め、兆候を察知した際には、関係機関に通告し、連携を図る仕組みとなっている。該当する事例がある場合には、組織内で状況を共有するとともに、早期発見のポイントも含め、手順等の再確認を行うこととしている。育児困難家庭の支援等に関する都のキャリアアップ等の外部研修へは、対象となる職員を派遣し、理解を深められるようにしている。		

サブカテゴリー6	
6 事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している ☐非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている ☐非該当
サブカテゴリー6の講評	
系列園共通の手引書や対応手順等を備え、職員が常時参照できるようにしている 新入職員用の教育資料として、目指す保育と特徴、保育実践の手法を「森友会の大切にしている保育」に示している。また「職員の心得マニュアル」に、勤務の心得、保育の基本としての子どもの人権への配慮等を定めるほか、保育実践や園外保育、感染症、事故・危機管理等の対応、健康面・衛生面など、業務全般に関する系列園共通の手引書を整備し、事務室に備え置いている。熱性けいれんやアレルギー等の緊急時の対応手順をまとめたファイルをフロアごとに設置して、随時参照できるようにしている。 業務手順等の見直しに取り組み、定められた手順等の定着と徹底を促している 系列園共通のマニュアルは、法人にて見直しを行っており、今年度は「個人情報管理マニュアル」の改訂を行っている。園独自の手引書類の見直しは園が行っており、職員から募った公園の危険箇所について、今後マニュアル化する予定でいる。消防署によるAEDや心肺蘇生法の訓練を職員が受講するほか、SIDS予防や玩具の誤飲、食物アレルギーなどの対応手順の確認を、看護師が職員向けに行っている。また今年度園で作成した不適切保育のチェックシートを用いた振り返りを毎月行うなど、定められた手順や守るべき事項の徹底を促している。 保護者の声や職員の話し合い等をもとに、園運営の見直しを行っている 行事後のアンケートで収集する感想からの課題抽出、第三者評価受審時の利用者調査の結果などから、保護者の意向を把握し、行事や保育等、園運営の見直し活かすこととしている。職員の意見等をもとにした見直しとしては、会議で挙げられた、園として確認したいことや伝えたいことが不十分だったという反省から、コロナ禍に伴い希望制で行っていた面談について、今年度は全家庭を対象に行っている。また園内の各種の委員会活動においても、それぞれの業務等の見直しを行っているほか、系列他園の見学を通じて学んだことを自園の活動に採り入れている。	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 35 / 35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつぎ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している ☐非該当
評価項目1の講評	
子どもの自発性を尊重し、集中して遊び込める環境づくりを行っている 乳児と幼児が同フロアで過ごすことで、保育者が一人ひとりの子どもの様子を見守ることができる環境となっており、フロアにいる職員全体で子どもの変化や興味・関心などの情報を共有するようにしている。0・1歳児と2歳以上児の過ごす空間をパーティションで仕切るとともに、視界を遮らないように工夫することで、それぞれの子どもの自発的な意思を尊重し、自由に行き来ができるようにしている。保育室は木製の棚や机などを活用してレイアウトを整え、玩具や教材・絵本等を子どもの目と手の届く位置に配置するなど、自発性の伸長を促している。 異年齢での生活・遊びを経験することで、思いやりの心や優しさが育まれている 年齢の異なる子ども同士が、生活や遊びを通して自然にふれ合い、互いが心地よく過ごすことができるような環境を構成している。身支度では年上児が年下児の手助けをしたり、構成遊びやカードゲーム等で年上児から学ぶ場面も見られ、年上児に対する憧れを抱くきっかけともなっている。年上児に優しく接してもらった経験が、さらに年下児への世話をする行動につながるなど、優しさの連鎖が繰り返される環境となっている。子どもを誉める場面では保育者は拍手をして、子どもに感謝の気持ちを伝えとともに、周囲の子どもや大人にも伝えている。 一人ひとりの特性や場面に応じた支援・配慮に努めている 配慮が必要な子どもに関しては、専門家のアドバイスを適宜受けながら、特性に応じた援助につなげている。チーム以外の職員でも関わることがあるため、生活面や関わり、遊びなどの活動面について会議等で報告・共有を図り、園全体でフォローアップができるようにしている。子ども同士のトラブルが生じた際には、状況やトラブルに至った経緯を把握し、双方の気持ちを受けとめ、どうしたらよいのかを一緒に考えるようにしており、保育者が指示を出すのではなく、子どもが自ら考えられるような投げかけをする姿勢を大切にしている。	

2 評価項目2	子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		☐ 非該当
評価項目2の講評			
登園時の健康確認と、一日の活動内容を保護者に伝える仕組みを整えている 登園時には、受け入れ担当の保育士が視診を行っている。子どもの顔色・表情・機嫌、体温や目視できる傷の有無などを確認するほか、保護者から口頭で、前日夕刻から朝までの子どもの状況について聴き取っている。聴き取った内容は「受け入れ受け渡し表」に記載し、職員間で共有を図っている。お迎え時には保護者に、子どもの体調やケガ等の事項を報告し、子どもの日中の様子をエピソードを踏まえて伝えることを心がけている。乳児・幼児の全体の様子は、写真と文章を用いた「ドキュメンテーション」を作成し、週末に保護者に伝えている。 一人ひとりの発達を把握し、意欲を尊重した身辺自立への取組を行っている 子どもと関わる時には、目を合わせて声をかけ、子どもの声や言葉に応じながら援助を進めている。興味や関心が芽生えて意欲の高まりが感じられた時には、行おうとする姿や少しでも自分でできたことを認めて、拍手や抱擁とともにその気持ちを誉めている。排せつの自立への取組は、集団で行うことなく、一人ひとりの排尿間隔を把握して、保護者と連携しながら進めている。着替えがスムーズに進められるように、自分の棚には写真と名前を貼り、脱ぎ履きしやすいような椅子を置いて自発的に取り組めるようにするなど、環境の面でも工夫をしている。 午睡のタイミングや環境は、一人ひとりのリズムや体調、安全に配慮している 午睡は、園で長時間過ごす子どもがリズムを整え、一日を通して健康的に過ごすために身体を休める時間としている。安定した気持ちで入眠できるように、午睡場所と遊ぶ場所を仕切り、寝ついた頃に仕切りを外すなど、環境面の工夫も行っている。昼食後に自分の眠りたいタイミングで横になり、保育者に見守られながら安心して眠れるようにしている。呼吸や状態の確認を規定時間ごとに行い、事故防止に努めているほか、年齢に応じて、午睡が必要でない子どもたちは、小グループで目的を持って散歩に出かける等の活動も採り入れている。			

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	☐ 非該当

評価項目3の講評

子どもが自発的に遊びを選択して存分に取り組める環境と、時間の工夫をしている

乳児・幼児室は、発達差を考慮した玩具や教材を揃え、個々の子どもが納得するまで遊びに集中できる時間の確保や環境整備を行っている。個別に始まった遊びが、その後に他の子どもの興味・関心につながったり、大人を介して他の子どもとの関わりに発展したりするよう援助している。遊びの展開への配慮では、遊び込んでいるところへの声かけの頻度を調整し、集中を妨げないように見守っている。季節の象徴物や子どもが独自でイメージをした制作物などの作品は、棚の絵や壁に展示し、子どもが満足感を抱き、自己肯定感が高まるような工夫をしている。

さまざまな活動を織り交ぜ、子どもの主体的な生活・活動を促している

楽器遊びやリズム遊びなどの表現活動を行っており、講師によるオペレッタは、表現する楽しみを味わう経験を目的として採り入れている。また集団活動に気持ちが乗らない場合には、その意思を尊重し、本人の意欲の高まりを待ちながら援助している。2～5歳児の集まりでは、自分の気持ちや思いを他の人に伝える機会を設け、自他の気持ちを伝え合うことで、相手の気持ちへの気づきや思いやる心の育ちにもつながっている。「今年の思い出発表」では楽しかったことや、うれしかったことの発表を笑顔で聴き合う姿も見られている。

散歩や屋上で身体を動かし、のびのびと過ごすことができる戸外活動を行っている

散歩は子どもの気づきや興味・関心に寄り添い、共感し、一緒に楽しむことをねらいとして行っている。保育者が子ども一人ひとりのつぶやきに耳を傾け、対話しながら楽しめるよう、少人数で出かけている。屋上では大型遊具でのびのびと身体を動かして遊んだり、音楽を流して体操や小集団でのルールのある遊び等を楽しんだりしている。子どもたちとの対話の中で「ちくちくことばとふわふわことば」の意味を伝え、仲間同士のやり取りで、悲しい気持ちやうれしい気持ちになる言葉使いについて、ともに考えられるような経験も重ねている。

4 評価項目4

日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	☐ 非該当

評価項目4の講評

親子でふれ合い、成長をともに感じられる行事に取り組んでいる

「もりんぴつく(運動会)」を開催し、子どもの成長を感じるとともに、親子で身体を動かし、保護者同士のコミュニケーションの機会も生まれている。0・1歳児は園内にて親子でのふれ合い遊びを中心に実施し、2～5歳児は小学校の体育館で行っている。競技内容には、保育環境の中に採り入れた遊びを盛り込み、走ることが好きな子どもたちの姿をもとに、年齢ごとにかけっこやリレーをするなど、日頃の遊びと連動しており、慣れない場所や保護者の前で緊張する気持ちを抱きつつ、頑張ろうとする姿を通して、成長の喜びを共有できる行事となっている。

「フェスティバル」を実施し、表現する喜びや楽しさを感じる姿を保護者に披露している

年間を通して、オペレッタや歌・手遊びなどの表現活動を採り入れており、表現する喜びを感じている子どもたちが、「フェスティバル」でその姿を保護者に披露している。リズムとともに身体を動かして楽しみ、歌を歌ったり、音楽劇を披露したりするなど、日々の子どもの姿とつなげた内容を考案している。4・5歳児は手話とともに歌を歌い、ダンスでソーラン節を踊り、遊びの中で考えられた創作劇を披露するなど、子ども同士の対話や保育者の助言をもとに内容を積み重ね、当日までの経過を楽しみながら取り組んでいる姿が見られている。

四季折々の伝承行事の体験や、親子・仲間とともに楽しめる行事を考案している

子どもの日・七夕・節分等の伝承行事は、朝の集まりで由来にちなんだ絵本を読んだり、象徴物の制作や視覚からも味わえる行事メニューを提供するなど、季節と行事を体感しながら、行事の意味や楽しさを経験している。夏祭りは園内をゲームコーナーや制作コーナーで飾り、盆踊りや年長児の手作り神輿などを楽しんでいる。「デイキャンプ」では年長児が、日常の保育では経験できない特別な活動を楽しみ、挑戦する意欲が持てるような活動に取り組むことをねらいとし、今年度は園内でカレーとアイスを作り、タマネギを使った染め物にも挑戦をしている。

5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)
	評価	標準項目		
	☒ あり ☐ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		☐ 非該当
	評価項目5の講評			
	活動バランスの工夫と、個々の生活リズムに寄り添った配慮をしている 週の活動内容は室内遊び・身体を動かす遊び・戸外遊び等、活動の偏りが生じないように展開しており、長時間を過ごす子どもたちが日々健康的に過ごせるようにしている。個々の生活リズムを把握して、一人ひとりのリズムや欲求に寄り添った食事・午睡環境を整え、夕寝を必要とする子どもにも安心して眠れる環境を用意している。ワンフロアでの保育室では、延長時間帯でも同じ空間で過ごすことができ、くつろぎながら安心してお迎えを待てる環境となっている。延長時間帯では特別な遊具を出すこともあり、寂しさを感じずに過ごせる配慮をしている。 延長時間帯の食事提供の配慮や、個々の子どもへの個別の関わりに努めている 18時以降は補食・夕食を提供し、アレルギーの子どもも安全に食べられる仕組みを整えている。補食は帰園後の夕食に影響が出ない量や内容とし、補食・夕食ともにゆっくりと家庭的な雰囲気の中で食べられるようにしている。お迎えを待つ子どもの寂しさを感じた時はスキンシップを取りながら、個別に絵本を読んだり、遊びをともにするなど、安心できるような配慮をしている。また合同時間帯であっても、こまめな水分補給やトイレの促しは個別に対応するように努めるとともに、お迎えの時には保護者に、子どものエピソードを口頭で伝えるようにしている。			

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	☐ 非該当

評価項目6の講評

食事の開始と終了の流れが身につき、子どもが主体となって行動している

食事時間は11時から13時を目安に設定し、室内で遊んでいる子どもが食事をしたいと思った時には、遊んでいる玩具や教材を片づけ、手を洗って着席し、保育者が隣について名前を呼ぶのを待つ流れとしている。名前を呼ばれた子どもは感染症対策として配膳者と子どもとの間にパーティションが設けられた配膳台で、配膳者と対話をしながら、自分が食べたい量を伝え、盛りつけてもらっている。一緒に食べたい仲間と食事をし、食事を終えた後は食器を自分で片づけるなど、食事の開始から終了まで子どもが主体となって行動できるようにしている。

アレルギーのある子どもが安全に食事を摂れるよう、面談や配膳等の仕組みを整えている

食物アレルギーのある子どもへの対応は、医師の指示書をもとに保護者と面談を行い、除去・代替食の内容を確認するとともに、献立作成後の保護者・園との確認や配膳方法に関する説明も行っている。提供時は複数人で内容を口頭確認し、専用トレーに食事を乗せて誤配・誤食を防いでいる。食事中も安全に食べられるよう、除去食の日は乳児の部屋をアレルギー専用の部屋として活用している。離乳食提供についても、未経験食材は家庭で試してもらうように食材表に印をつけてもらい、咀嚼や嚥下・意欲を保護者と確認したうえで、段階を進めるようにしている。

子どもの食への興味や関心を深め、楽しくおいしく食べられるように取り組んでいる

献立は和食を中心に、洋風・中華風の食材・調理方法での食事も提供し、果物も添えている。また食育メニューとして世界各国の料理や旬の食材・行事に合わせた献立を作成し、視覚からも楽しめるような工夫をしている。世界の料理に合わせた各国の文化への興味を深める取組や、身近な野菜に触れたり、皮むきなどのお手伝いをしたりするなど、食への興味・関心を深め、日々の食事をよりおいしく楽しく食べられるようにしている。年長児は就学に向け、食べ始めから食べ終わるまでの一定の時間を設定しながら食事をする取組も実施している。

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している 評点(〇〇〇)		
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th style="width: 15%;">評価</th> <th style="width: 85%;">標準項目</th> </tr> </table>	評価	標準項目
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 85%;">1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">〇非該当</td> </tr> </table>	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	〇非該当
1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	〇非該当		
☒ あり ☐ なし	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 85%;">2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">〇非該当</td> </tr> </table>	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	〇非該当
2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	〇非該当		
☒ あり ☐ なし	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 85%;">3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">〇非該当</td> </tr> </table>	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	〇非該当
3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	〇非該当		
	評価項目7の講評		
	子どもたちが安全や衛生を意識できるよう取り組んでいる 散歩や遊びの活動前には、保育者から交通マナーや安全な遊び方、使用してよい遊具等の約束ごとを、「安全委員会」が中心となって定めたルールに基づいて伝えている。警察署や消防署と連携した不審者対応や避難訓練では、署員からの講話により、子どもたちの安全に対する意識を高めている。手洗いの方法を各クラスに掲示し、子どもたちの見本となるよう、職員が率先して手を洗う姿を見せるほか、朝の会での説明や絵本の読み聞かせも行っている。また、看護師による手洗い指導も行うなど、さまざまな取組から手洗いの大切さを伝えるようにしている。 保護者や嘱託医等と連携し、子どもの健康の維持・管理にあたっている 医療的ケア等の情報は、入園時の面談等で把握し、かかりつけ医からの助言や援助方法等を保護者に確認し、個別の配慮に活かしている。子どもの発育や健康状態は、毎月の身体測定や嘱託医が行う各種の検診により定期的に把握し、所見があれば、保護者に受診を依頼している。登園時には、受け入れる職員が健康観察を行うとともに、保護者への口頭確認も行い子どもの健康状態を確認し、内容に応じてその日の配慮に活かしている。また、看護師が各クラスを巡回し、子どもの健康状態を確認するほか、子どもの体調変化やケガに対応している。 家庭と連携した子どもの健康の支援に向け、保健に関する情報の提供を行っている 体調不良時の登園基準や与薬等の保健面の約束ごとのほか、SIDSと園の予防対策等について、入園時に説明を行い、保護者の理解と協力を促している。国や市等からの保健に関する発信物や利用できる制度のほか、新型コロナウイルスへの園の対応等を掲示している。また、園内で発生した感染症は、発生状況を掲示して保護者の注意を喚起している。毎月発行する保健便りでは、冬のスキンケアやインフルエンザ等の感染症など、季節に応じた話題や健康維持のための留意事項を発信するなど、家庭と連携した子どもの健康の支援に取り組んでいる。		

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	☐ 非該当

評価項目8の講評

家庭事情や就労等、保護者の個別の状況に配慮した支援等に努めている

降園時は迎えの重なり等で難しい場合もあるが、子どもの当日の様子を伝えるなど、保護者とコミュニケーションをとるように心がけている。日々の保護者との対話や面談では、寄せられる育児等の相談に応じており、把握した保護者の個別の事情等に配慮した支援に努めている。保護者の体調や就労等に応じた時間での登園に配慮したり、延長保育や土曜保育のスポット利用についても柔軟な対応をとるようにしている。また、面談を降園時に行うようにしたり、きょうだい児が在園する家庭は、クラス別の保護者会が重ならないようにするなどの配慮も行っている。

行事への参加を通じて、保護者同士の交流や養育力向上の支援を行っている

保護者が参加する主要行事は、主に土曜日に行い、参加の見通しを持てるよう、年度当初に年間の行事予定を配付するほか、園便りに次月の予定を掲載している。行事への参加を通じて、保護者同士が交流を行えるようにしており、クラス別の保護者会では、設けたテーマに基づいた座談会を行っている。また、クラス別の保護者会では、イヤイヤ期等の年齢に応じた発達の特徴と園の対応などを説明したり、保育参加では、法人の表現活動の講師が行う活動や外部講師による運動遊びを体験してもらうなどして、保護者の養育力向上の支援に努めている。

保護者会や発信物を通じて、保護者との相互理解が深まるよう取り組んでいる

クラス別の保護者会では、クラスの年間の目標や方針、活動や生活面の配慮等のクラスの取組、散歩に対する園の取組、子どもの様子などについて、動画や写真も使って説明している。子どもたちが取り組んだ作品の掲示や行事等を通じて、園の取組が伝わるようにしている。子どもたちの日々の様子は、乳児は連絡帳を通じて毎日、幼児はノートを通じて週1回以上、保護者に発信している。また、各種の便りでも、子どもたちの様子や園の取組などを発信し、保護者との相互理解が深まるよう取り組んでいる。

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当
	評価項目9の講評		
	地域資源を活用した体験や交流の機会を設けている 戸外活動では、ボールや設置遊具を使って遊ぶなどの、目的に合わせて園周辺の公園を選んで散歩に出かけており、散歩先の公園や道中では、折々の季節感を感じられるようにしている。土曜日には、近隣にある市の施設「未来センター」で開催される音楽会に参加したりするほか、市内の公園や動物園へ行く際は、モノレールを利用しており、公共マナーを学ぶ機会ともなっている。子どもの折々の興味・関心に沿って、園周辺の店舗を訪問し、年長児の「ディキャンプ」では、近隣の八百屋や駅前のスーパーで、当日の食材の買い物体験をしている。 職員以外の人々と交流する機会を設けている 散歩の道中では、すれ違う地域の人々と挨拶を交わし、消防署では消防車に乗せてもらうなど、署員との関わり合いが持たれている。4・5歳児は近隣のパン屋によるパン作りの体験時や、誕生児は自身へのプレゼントである花の購入時に、各店員とふれ合うことができている。近隣にある保育所とは、年長児同士が就学に向けて交流する機会を設けている。保育士養成校からの実習生や、市内の特別支援学校からの職場体験生を受け入れており、保育を通して、各学生と子どもたちがふれ合うなど、職員以外の人々との交流する機会を設けている。		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル①	園の取組や子どもの育ちの発信に注力している	
内容①	4・5歳児は昨年度から週に1・2回「運動の日」を設け、午後に屋上の園庭や公園で、縄跳びやリレーなどの運動に取り組んでおり、クラス別の保護者会では、この取組や散歩に対する園の考えを説明している。また、園便りでは、散歩のほか、ケガや地域交流、不適切保育の防止などに対する取組や方針を発信している。毎月発行する乳児・幼児の「フロア便り」や、毎日の子どもの写真や週単位の活動内容の保育室入口での掲示のほか、設置するタブレットでも日々の様子の写真や動画を視聴できるようにし、子どもの様子や園の取組が伝わるようにしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-6-2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている
タイトル②	委員会活動や他園で得た学びを通じて、さまざまな見直しを行っている	
内容②	園内に保育・給食・安全・衛生管理などの5つの委員会を設置し、各委員会で担当する分野の課題について話し合い、見直しを行っている。幼児のフロア便りの記載方法やシフトによる業務分担、公園の危険個所の確認と利用ルールの統一化などが見直され、業務効率化や安全面の強化が図られている。また、作品の飾り方や年長児が楽しめるゲーム性のある教具など、系列園の見学で得た学びも自園に採り入れ、環境面の工夫や玩具の充実を図るなど、委員会活動や系列園の見学を通じて、自園での業務や活動等のさまざまな見直しや充実に取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	1-1-2	経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている
タイトル③	園長のリーダーシップのもとで、現状の検証と種々の仕組みや環境の変革を行っている	
内容③	昨年度着任の現園長を中心に、さまざまな面で質的向上に取り組んでいる。昨年度後半から2階の保育室を2エリアに区分し、課題としていたケガ・誤飲等の事故や感染症まん延の抑制を図るとともに、事故等の発生時の保護者への説明をリーダー層が担い、毎月の園・クラス便りの紙面や保護者会の説明内容も見直すなど、保護者への保育や運営に関する情報提供を充実させ、相互理解の促進に努めている。また市内の待機児の減少などの事業環境の変化を踏まえ、見学者へのアンケートを新たに設け、今後の生存戦略に活かすべきニーズの把握にも取り組んでいる。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	日々の保育の取組は、保育者との語らいの中で広げられた子どもたちの興味や発想を活かして進められている
	内容	「誉める保育」として、子どものありのままの姿を受けとめ、拍手やハグ、笑顔での声かけなどの誉めの表現を行い、子どもの自信や安心感につながるようにしている。声かけは集団に対してではなく、一人ひとりに寄り添うことで、子どものさまざまな思いの理解へとつながっている。朝・夕の集まりでは、日々の活動や行事、子ども同士のやり取りによって感じたことなどの身近な話題から社会の出来事まで、子どもとの対話の機会を設けている。これらの対話の積み重ねの中から、新たな発見や活動の広がりにつながり、豊かな経験が得られている。
2	タイトル	さまざまな行事は、子どもたちの日々の保育活動との関連を意識し、生活や成長の節目として行っている
	内容	子どもたちが主体的に行事に取り組めるよう、行事のイメージを伝え、期待感を高めながら対話を重ね、子どもと保育者がともに作り上げられるようにしている。「フェスティバル」に向けては、日々の保育で取り組む内容をもとに、子どもたちと創作をし、役柄やせりふを決めるなどの表現活動を行っており、年長児は日頃学んだ手話で自己紹介をする姿を披露している。「もりんびっく」では子どもの心身の成長を保護者と共有するとともに、親子でふれ合い、走り、踊りを楽しむことで、保護者同士の交流も深まり、コミュニティ作りのきっかけともなっている。
3	タイトル	安全にも配慮された環境のもとで、異年齢の子どもたちが遊びや生活を通して学び合い、育ち合えるような関わりが行われている
	内容	保育室は全体を見渡せるワンフロア環境で、乳児と幼児のエリアの間をパーティションで分け、安全にも配慮した構成としている。1歳児は2歳児への進級に向け、年度後半には幼児のエリアでの生活も採り入れ、生活リズムや子ども同士での関わり方に負担なく慣れたいけるよう、丁寧な配慮に努めている。各室内には、子どもたちの発達やその時のブーム、その先の遊びの見通しを予測して玩具や教材を揃え、発達の違いから生じる子どもの戸惑いには保育者が仲立ちをしたり、遊びに寄り添ったりし、異年齢での関わり合いに無理なくなじめるようにしている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	保護者が園に期待するものをとらえつつ、園の魅力や価値を効果的な方法・媒体で伝える工夫を、さらに深めていきたいと考えている
	内容	経営層は今後の経営継続上の課題として、在園世帯の信頼と評価を高めることも重視している。昨年度から注力する、事故等の防止と発生時の保護者への的確な報告のほか、日々の写真の掲示なども活性化させ、保護者会や園・フロア便りでは、園の保育と子どもたちの生活に加え、園の方針や大切にしていることなども具体的に発信するなど、保護者に伝える情報を質量ともに高めることに取り組んでいる。安全の確保や子どもの豊かな成長など、保護者が園に期待するものをとらえ、園の取組をそれに応える形で的確に伝える工夫を、さらに深めたいと考えている。
2	タイトル	法人の掲げる保育のさまざまな基本について、組織全体で理解を深め、実践の質を高めることを課題としている
	内容	職員の異動等による入れ替わりにより、入職1・2年目の職員の占める割合が高い状況となっており、法人・園が目指す保育の実践に向けて、職員の理解を深めてゆくことを課題としている。また、系列園共通の手引書類は整備されているものの、組織内の共通理解を深めるため、手引書の活用についても課題と捉えており、次年度には、園内研修や抜粋版の手引書作成などにより、目指す保育の基本の徹底や手引書等のさらなる活用を図りたいと考えている。保育実践の質の向上や定められた手順の徹底に向けた、今後の園の取組を期待したい。
3	タイトル	子どもたちが、自分たちが暮らし、育ってゆく地域とさらに多様に関わることのできる機会づくりにも取り組む意向である
	内容	近隣の公園への散歩、パン作り体験、ハロウィンでの仮装をしておきの練り歩き、誕生児の花の購入のほか、近隣の他園との交流など、園周辺にある地域資源を活用した体験や交流の機会が設けられている。また地域の未就園世帯向けの育児講座等の地域貢献にも取り組んでいる。保育所体験等の実施による地域貢献の充実を図る中で、在園児との関わりを持たせたり、系列園や他園との交流機会の充実や散歩時の商店との交流などを通じて、地域との関わりをさらに深めたいと考えており、今後の活動等のさらなる発展を期待したい。